

教 科	国語				
学 年	3 学年	科 目	論理国語	単位数	2
担当者	3 学年担当 国語科教諭				
達成目標	①【知識・技能】評論を読むことに必要な語彙力・知識を身につけ、本文読解に用いることができる。 ②【思考・判断・表現】読む・書くといった活動を通して、論理的、批判的な思考力と判断力、レポートや小論文の書き方を学び実践的な表現力をを身につける。 ③【主体的に学習に取り組む態度】積極的に様々な内容の文章に触れることで著者の主張を理解し、正確に文意を理解しようとする意識を培う。				
教 材	教科書『論理国語』（数研出版）その他 副教材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	評論文の理解に必要な語句や知識を身につけ、正確に文章の理解ができる。	題材に関して自らの考えをまとめ、発表等を通して他者と共有できる。また、他人の考えを認識することで自己の思考を深化させることができる。		言葉を媒介として積極的に現代社会を理解しようと努め、常に自己の向上を図ることができる。	
主な評価方法	・ペーパーテスト(事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果	・ペーパーテスト ・レポート ・グループでの話し合いや発表の場面での観察		・授業中の発言 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容 ・課題への取り組み状況	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	「「いき」の美学」（尼ヶ崎彬） 「「文化が違う」とは何を意味するのか？」（岡真理）		中間考査	10 時間	
	「人はなぜ働かなくてはならないのか」（小浜逸郎） 「意志と選択」（國分功一郎）		期末考査	10 時間	
2 学期	「「である」と「すること」（丸山真男） 「顔の所有」（鷺田清一）		中間考査	15 時間	
	「舞姫」（森鷗外） 「無常ということ」（小林秀雄）		期末考査	15 時間	
3 学期	「近代日本の開花」（夏目漱石）		学年末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
○この科目では主に正確な読みを通して評論文の読解を学び、現代の諸相に触れることで豊かな感性と理性を育み、人生を豊かにすることが目的です。学習活動の狙いや目標を意識して積極的に授業に取り組んでください。 ○予習として本文を通読し、語句の意味等確認しておくようにしてください。不明な箇所は授業内で解決し、復習を必ず行うようにしましょう。 ○授業内で、語句の意味や漢字の小テストを行います。すぐに語彙が増えるものではありませんので、都度しっかり学習し覚えるようにしましょう。 ○課題・提出物は期限内に必ず提出しましょう。					

教 科	国語				
学 年	3 学年	科 目	古典探究	単位数	2
担当者	3 学年担当 国語科教諭				
達成目標	①【知識・技能】古典を読むことに必要な語彙力・知識を身につけ、本文読解に用いることができる。 ②【思考・判断・表現】読む・書くといった活動を通して、論理的に考える力や判断力、豊かな想像力を伸張させる。また、昔の人々の思想に触れ、自身の思いや考えを深め、それを適切に表現することができる。 ③【主体的に学習に取り組む態度】積極的に様々な種類の文章に触れることで文化としての日本語の豊かさを理解し、自らが言語文化の担い手であるという自覚を養う。				
教 材	教科書『高等学校 精選 古典探究』（第一学習社）その他副教材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	古典や韻文の理解に必要な語句や文法の知識を身につけ往事の社会を知り古典作品を理解できる。	題材に関して自らの考えをまとめ、発表等を通して他者と共有できる。また、古人の考えを認識することで自己の思考を深化させることができる。	言葉を媒介として積極的に古人やその生きた社会を理解しようと努め、常に自己の向上を図ることができる。		
主な評価方法	・ペーパーテスト(事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果	・ペーパーテスト ・レポート ・グループでの話し合いや発表の場面での観察	・授業中の発言 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容 ・課題への取り組み状況		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	「袴垂、保昌に合ふこと」（宇治拾遺物語） 「雪のいと高う降りたるを」（枕草子） 「不顧後患」（説苑）		中間考查	10 時間	
	「行行重行行」（文選） 「門出」（更級日記） 「夕顔の死」（源氏物語）		期末考查	10 時間	
2 学期	「葵の上の出産」（源氏物語） 「三舟の才」（大鏡） 諸子百家思想		中間考查	15 時間	
	「深草の里」（無名抄） 「行く春を」（去来抄） 「荊軻」（史記）		期末考查	15 時間	
3 学期	「荊軻」（史記） 「秘密の出産」（とはずがたり）		学年末考查	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
○この科目では、現代の日本語の基になった内外の古典を学ぶことで豊かな感性と理性を育み、人生を豊かにすることが目的です。学習活動の狙いや目標を意識して積極的に授業に取り組んでください。 ○予習として本文を通読し、語句の意味等確認しておくようにしてください。不明な箇所は授業内で解決し、復習を必ず行うようにしましょう。 ○授業内で、文法テストや古語テストを行います。すぐに語彙が増えるものではありませんので、都度しっかり学習し覚えるようにしましょう。 ○課題・提出物は期限内に必ず提出しましょう。					

教 科	国語				
学 年	3 学年	科 目	文学国語	単位数	3
担当者	3 学年担当 国語科教諭				
達成目標	①【知識・技能】言語活動を通して、社会生活に必要な語彙力・知識を身につけ、本文読解に用いることができる。 ②【思考・判断・表現】他者との関係の中で、自分の考えをお互いに伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養う。 ③【主体的に学習に取り組む態度】日本語の豊かさを理解し、自らの言語感覚を磨くとともに、言語文化の担い手であるという自覚を養う。				
教 材	教科書『文学国語』（数研出版）その他副教材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	社会生活に必要な語彙力や知識を身につけるとともに、言語文化に対する理解を深めることができる。	様々な作品に触れることで想像力を豊かにし、発表等を通して自分の思いや考えを深め、他者と共有できる。	言葉を通じて積極的に他者や社会と関わったり、自分の思いや考えを深め、自己の向上を図ることができる。		
主な評価方法	・ペーパーテスト(事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果	・ペーパーテスト ・レポート ・グループでの話し合いや発表の場面での観察	・授業中の発言 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	『鍋セット』（角田光代） 『ひよこの眼』（山田詠美） 『赤い繭』（安部公房）		中間考査	15 時間	
	『山椒魚』（井伏鱒二） 詩歌「小諸なる古城のほとり」（島崎藤村） 「表札」（石垣りん）		期末考査	15 時間	
2 学期	『檸檬』（梶井基次郎）『瀬山の話』と読み比べ『件』（内田百閒）		中間考査	23 時間	
	『水仙』（太宰治）太宰の他の作品も読む 短歌 5 首 言語活動		期末考査	22 時間	
3 学期	俳句 5 句 言語活動 『藤野先生』（鲁迅） 『文学のふるさと』（坂口安吾）		学年末考査	30 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
○この科目では、多くの文学的文章を読むことで豊かな感性と想像力を育み、人生を豊かにすることが目的です。学習活動の狙いや目標を意識して積極的に授業に取り組んでください。 ○予習として本文を通読し、語句の意味等確認しておくようにしてください。不明な箇所は授業内で解決し、復習を必ず行うようにしましょう。 ○課題・提出物は期限内に必ず提出しましょう。					

教 科	国語				
学 年	3 学年	科 目	現代文特論	単位数	2
担当者	3 学年担当者				
達成目標	(1)多くの教材を読むことで、さまざまな思考や人間の心情に触れ、主体的かつ探究的に物事を考える態度を育てる。(2)文章を正確に読み取り理解したことを論理的に表現する力を養い、大学受験を希望する生徒に学力を定着させる。				
教 材	論理的に読み・書く 現代文記述講座基礎編（数研出版） 新版 大学入学共通テスト準備演習 論理・文学編（数研出版）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	語彙・表現・構成など基本的なスキルを身につけるとともに、それを使用し、読解する力がついたか。	文章を正しく読み取る力を身につけるとともに、論点を明確にしつつ自らの言葉で表現するスキルが身についたか。		課題に対して自分なりの考えを記述し、解答と照らし合わせて、よりよい答えへと修正する姿勢が身についたか。	
主な評価方法	・ 定期考査 ・ ドリルへの取り組み ・	・ 定期考査 ・ 記述問題への取り組み ・		・ 問題への取り組み ・ 話し合いへの取り組み ・	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	短い文章の問題演習・記述中心 （評論・小説）		中間考査	10 時間	
	抽象的な文章・長い文章の問題演習・ 記述中心 （評論・小説）		期末考査	10 時間	
2 学期	頻出テーマの問題演習・記述中心 （評論）		中間考査	15 時間	
	大学入学共通テスト対策・マーク中心		期末考査	15 時間	
3 学期	大学入学共通テスト対策・マーク中心		期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
・ 各学期毎に 2 回の定期テストを実施 ・ 講座別学習 ・ 持ち物：問題集・辞書・ノートなど					

教 科	国語				
学 年	3 学年	科 目	古典特論	単位数	3
担当者	3 学年担当 国語科教諭				
達成目標	(1)多くの古典作品を読むことで、古典の知識・文法事項のより一層の定着を図る。(2)入試問題に取り組み、初見の文章を正確に読み解く受験学力を養う。				
教 材	基礎が身につく古典 レベル 3 (Z会) 新版 大学入学共通テスト準備演習 古文・漢文編 (数研出版)				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	単語、文法、語法などの基本的な知識を身につけたか。	古典作品を理解する上での背景知識をふまえ、作品に描かれる世界を読み取ることができたか。	さまざまな古典作品に触れることで異文化を楽しむ姿勢を身につけ、主体的に問題に取り組むことができたか。		
主な評価方法	・ 定期考査 ・ 文法等ドリル ・	・ 定期考査 ・ ・	・ 問題への取り組み ・ 話し合いへの取り組み ・		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	古文文法・漢文句法の復習 基本の記述問題演習		中間考査	15 時間	
	古文文法・漢文句法の復習 基本の記述問題演習		期末考査	15 時間	
2 学期	古文文法・漢文句法の復習 基本の記述問題演習		中間考査	23 時間	
	大学共通テスト対策・マーク対策		期末考査	22 時間	
3 学期	大学共通テスト対策・マーク対策		期末考査	30 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
・ 講座別学習 ・ 各学期毎に 2 回の定期テスト ・ 持ち物：問題集、文法のテキスト、辞書、ノートなど					

科 目	世界史特論	単位数	4	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	『詳説世界史』（山川出版）				
補助教材等	『要点整理ゼミナール世界史』（浜島書店）、『アカデミア世界史』（浜島書店）				

1 学習の到達目標

近現代の欧州の世界進出に関わる、世界の一体化の原因と影響を自ら考え、理解し、現代のグローバル化する国際社会に生きる、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○教科書・資料集・授業プリントを活用して授業を行います。多様な資料から、歴史的事象を多角的に考察しましょう。

○知識の暗記だけでなく、その歴史的事象の原因や背景・その後の影響を常に考えながら取り組みましょう。

○定期テストに加えて、単元ごとに自主課題を設定し考察する機会を設けます。授業の中での疑問や興味を持ったことを大事にして、自分なりの考察をしてみてください。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	近現代の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
主な評価方法	・定期考査（60%）	・定期考査 ・単元ごとの課題設定・レポート（20%）	・単元ごとの課題設定レポート ・授業中の発問（20%）

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	・近世ヨーロッパの動向	・オランダ・イギリス・フランスの台頭 ・北欧・東欧の動向 ・科学革命と啓蒙思想	10	・ヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想を基に、地球規模での交易の拡大を学ぶ。	・ヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想を基に、地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。【a】 ・多様な資料・地図をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。【b】 ・自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。【c】
5 6	・産業革命と環大西洋革命	・産業革命 ・アメリカ合衆国の独立と発展 ・フランス革命とナポレオンの支配 ・中南米諸国の独立	20	・産業革命と環大西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に学ぶ。	・産業革命と環大西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。【a】 ・多様な資料・地図をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。【b】 ・自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。【c】
7	・イギリスの優位と欧米国民国家の形成	・ウィーン体制とヨーロッパの政治社会の変動 ・列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 ・アメリカ合衆国の発展 ・19 世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	10	・国民国家の形成、国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制を基に、イギリスの覇権の特徴、欧米諸国の変容を学ぶ。	・国民国家の形成、国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制を基に、イギリスの覇権の特徴、欧米諸国の変容を理解している。【a】 ・多様な資料・地図をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。【b】 ・自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。【c】
8 9	・アジア諸地域の動揺	・西アジア地域の変容 ・南アジア・東南アジアの植民地化 ・東アジアの激動	10	・国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア 諸国の植民地化と諸改革などを基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に学ぶ。	・国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア 諸国の植民地化と諸改革などを基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解している。【a】

10	・帝国主義とアジアの民族運動	・第二次産業革命と帝国主義 ・列強の世界分割と列強体制の二分化 ・アジア諸国の変容と民族運動	10	・第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に学ぶ。	・第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。【a】 ・多様な資料・地図をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。【b】 ・自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。【c】
11	・第一次世界大戦と世界の変容 ・第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・アジア・アフリカ地域の民族運動 ・世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 ・第二次世界大戦 ・新しい国際秩序の形成	10	・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に学ぶ。 ・世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺などを基に、国際関係の緊張と対立を構造的に学ぶ。 ・第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序、冷戦とアジア諸国の独立の始まりなどを基に、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に学ぶ。	・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。【a】 ・世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺などを基に、国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。【a】 ・第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序、冷戦とアジア諸国の独立の始まりなどを基に、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。【a】 ・多様な資料・地図をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。【b】 ・自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。【c】
12	・冷戦と第三世界の台頭 ・冷戦の終結と今日の世界	・冷戦の展開 ・第三世界の台頭とキューバ危機 ・冷戦体制の動揺 ・産業構造の変容 ・冷戦の終結 ・今日の世界 ・現代文明の諸相	10	・集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、冷戦の終結と地域紛争の頻発などを基に、紛争解決の取組と課題を学ぶ。	・集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、冷戦の終結と地域紛争の頻発などを基に、紛争解決の取組と課題を理解している。【a】 ・多様な資料・地図をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。【b】 ・自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。【c】

--	--	--	--	--	--	--

令和 7 年度 地歴公民 科 シラバス

科 目	日本史特論	単位数	4	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）				
補助教材等	『図説日本史通覧』（帝国書院）『日本史重要史料集』（浜島書店）『4ステージ演習ノート日本史 B』（数研出版）				

1 学習の到達目標

近世から現代までの通史を学習し、近世日本の特質・近代日本の成り立ち・現代の諸課題について理解する。

歴史的な基本的知識を習得し、課題を追究する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に生きる、平和で民主的な社会の、主体的形成者として必要な資質・能力を育成することを目指す。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○史料などを用いながら、より深く学び、日本史の面白さを体験していきます。

○大学入試共通テストや大学入試で受験科目として選択する人にも対応します。自ら積極的に学習することが必要です。

○単なる暗記ではなく、自ら考え、理解していく姿勢を求めます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	歴史の諸事象について正確な基本的知識を身に付け、諸事象の情報から歴史的な考察ができる。	歴史事象の特色・展開・背景などについて、相互の関連・比較・現在とのつながりなどに着目し考察したり、説明したりできる。	歴史事象に対する興味関心を深め、自主的主体的に日本史の学習を深化・発展させることができる。
主な評価方法	・ 定期考査 ・ 提出課題 ・ 発問評価など ・	・ 定期考査 ・ 提出課題 ・ 発問評価 ・ 発表など	・ 定期考査 ・ 提出課題 ・ 授業態度 ・ 発表など

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5 月	第9章、幕藩体制の成立と展開 第10章、幕藩体制の動揺 第11章、近世から近代へ	上述の教科書と副教材	20	① 幕藩体制確立の政治過程を理解し、確立期の経済・社会を兵農分離や村落都市支配などの観点から、多面的多角的に考察する。 ② 農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義と影響を考察する。	例えば、(a) 文治政治への転換から、元禄時代・正徳期に至る政治の推移・各時代の政策の特色を正しく理解している。(b) 幕府や諸藩の財政・統治政策の推移について諸資料から正しく読み取れる。(c) 飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に探究しようとしている。
6 7 月	第12章、近代国家の成立 第13章、近代国家の展開1節	上述の教科書と副教材	20	① 明治新政府の制度改革や富国強兵政策に着目して政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ② 日清・日露戦争開戦に至る国際関係や、戦争の経過・戦後の植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連付けて考察する。	例えば、(a) 諸資料を踏まえて、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る政治過程を正しく理解している。(b) 大日本帝国憲法の特色・史的意義について具体的・多面的に考察できる。(c) 対外的な戦争が日本の近代化の過程の中で持った意味を考察し、主体的に探究しようとしている。
8 9 月	第13章、2・3節 第14章、近代の産業と生活	上述の教科書と副教材	30	① 第一次世界大戦前後の政治動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。 ② 大正デモクラシーの風潮、社会運動の動向を具体的に、正しく理解する。 ③ 労働者や都市中間層の拡大による大衆社会状況の成立に着目して、大衆文化の特色について考察する。	例えば、(a) 第一次大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場・対外政策の変化について諸資料から正しく読み取り、理解している。(b) 中国や朝鮮などアジア近隣諸国民が日本の対外政策をどのような受け止めたのかを多角的に考察できる。(c) 米騒動や関東大震災の中で、民衆・権力・帝国意識など学びを掘り下げている。
10 11 月	第15章、恐慌と第二次世界大戦	上述の教科書と副教材	30	① 戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ② 恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、5.15事件から2.26事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。 ③ 日中戦争から太平洋戦争に至	例えば、(a) 日本で連続した恐慌と政府の対応に関わる資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について正しく理解している。(b) 当時の社会が抱えた矛盾と国内での軍部の政治的進出、満州事変などの対外政策等、諸事象を相互に関連づけて多角的に考察・表現できる。(c) 当時の新聞などから世論の動向を読み取ったりして、どのように、なぜ

				る過程について、国民生活の変化や統制令に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ④ 第二次大戦の総力戦の特質を踏まえ、空前の災禍をもたらしたことを歴史具体的に学ぶ。	戦争への道を歩んだかを主体的に探究できる。また、戦争の被害の諸相を、歴史を生きた個々人の次元で理解しようとしている。
12月～	第16章、占領下の日本 第17章、高度成長の時代 第18章、激動する世界と日本	上述の教科書と副教材	40	① 戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策について、その経過と内容を理解する。 ② 独立後の日本の国内政治について、国際的背景を踏まえ、55年体制の歴史的意義を考察する。 ③ 冷戦体制の終結と、国内の状況について、政治・外交・経済・生活文化面から多面的に考察する。	例えば、(a)日本国憲法制定の過程・内容・歴史的意義を考察し、理解できている。(b)戦後日本経済の日本の特質と高度経済成長のもたらした社会問題を多面的に考察し、表現できる。(c)「失われた30年」ともいわれる「平成史」の意味を、「昭和史」と比較し、歴史具体的に考察しようとしている。

令和 7 年度 地歴公民 科 シラバス

科 目	地理特論	単位数	4	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	地理探究『新詳 地理探究』（帝国書院） 『新詳 高等地図』（帝国書院）				
補助教材等	『新編 地理資料 2022』（とうほう） 『ニューコンパスノート地理 2023』（数研出版）				

1 学習の到達目標

「地理総合」で身につけた基礎的な知識や技能を基に、系統地理的学習を進め、地理の学びを一層深める。さらに地域的な枠組みから世界を探究する地誌的学習に入り、世界の多様性に気づき、現代世界の諸課題の現状を理解し、地理的な見方・考え方を通して課題解決のために私たちができることは何かを考える。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 1 テキストや資料集に加え、インターネットや新聞などを活用しながら、最新の状況についてのデータや資料を提供し、世界のリアルな姿を伝えていきます。受講者にも、ニュースなどを通じて世界情勢を理解しようとする積極的な姿勢を求めます。
- 2 様々な地理的な課題の解決に向け、どのように行動すれば良いかを主体的に探究していく姿勢を求めます。
- 3 定期考査のほか、プレゼン発表、レポート作成などを実施する場合があります。
- 4 大学入試共通テストや大学の個別入試で受験科目として選択する人は、授業の進度に合わせて、自分でサブノートをつくったり、問題集に取り組んだりするなど、家庭での復習も必要です。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	世界や日本各地の地域の特色、課題を理解し、基本的な地名・地域名・用語などを身につけている。資料集や教科書、新聞などを見ながら資料やグラフ・統計・地図を読み取り、整理し、まとめることができる。	自分の考えをまとめ、表現・発表することができる。また他者の発表をもとに、自分の考えをさらに深めることができる。	普段から新聞やニュース番組に触れ、地域や日本、世界の状況に関心を持っている。授業内容を踏まえ自分の意見をまとめ、授業に積極的に参加できる。
主な評価方法	・定期考査 ・授業内での発問に対する回答など	・定期考査 ・提出課題 ・プレゼン発表 ・授業内での発問に対する回答など	・授業中の学習への取り組み ・課題への取り組み ・グループ討議

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5 月	第1部 現代世界の 系統地理的 考察 第3章 交通・通信 と観光、貿 易	上述の教科書 と副教材	20	① 交通網や通信網の発達には、どのような傾向や地域性、地域間格差が現れているのか考察する。 ② 観光にはどのような特徴や利点があり、どのような課題があるのか考察する。 ③ 拡大を続ける世界の貿易に、なぜ地域性や地域間格差が現れているのか考察する。	例えば、 (a) 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 (b) 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。 (c) 交通・通信、観光についての課題を主体的に追究しようとしている。
6 月	第4章 人口、村落・都市	上述の教科書 と副教材	20	① 世界各地の人口の分布や年齢別構成、移動には、どのような特徴がみられるのか考察する。 ② 先進国と発展途上国で、出生率の高低や高齢化の進行にどのような違いが表れているのか考察する。 ③ 村落や都市の立地や形態、変容のしかたにみられる傾向や規則性、また、国や地域によって異なる地域性を理解する。 ④ 都市が持続的に発展していくためには、どのような課題があるのか。また、それらを解決するための取り組みを理解する。	例えば、 (a) 人口、都市・村落などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 (b) 人口、都市・村落などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。 (c) 人口、村落・都市の課題を主体的に追究しようとしている。

7 8 9 月	第5章 生活文化、 民族・宗教	上述の教科書 と副教材	24	① 伝統的な衣食住の生活文化にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きとどのように関わっているのか考察する。 ② 民族や宗教の独自性はどのようにとらえることができ、各地にみられる民族問題の背景とどのように関わっているのか考察する。 ③ 領域が定められたり、その領域が変更されたり、国家が新たに誕生したりすることで、どのような問題が起こっているのか考察する。	例えば、 (a) 生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 (b) 生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。 (c) 生活文化、民族・宗教についての課題を主体的に追究しようとしている。
10 11 月	第2部 現代世界の 地誌的考察 第1章 現代世界の 地域区分 第2章 現代世界の 諸地域	上述の教科書 と副教材	24	① 諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解する。 ② 地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解する。 ③ 地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察する。 ④ 現代世界の諸地域でみられる課題を追究する。	例えば、 (a) 世界の諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などを理解している。地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解している。 (b) 地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。 (c) 現代世界の諸地域でみられる課題を主体的に追究しようとしている。
12 月 ～	第2章 現代世界の 諸地域（続 き） 第3部 現代世界に おけるこれ からの日本 の国土像 第1章 持続可能な 日本の国土 像の研究	上述の教科書 と副教材	40	第3部 ① 日本の強みをより生かせる将来について考え、持続可能な社会を構築していくには、どのようなことに取り組めばよいか考察する。 ② 現代の日本の社会が抱える地理的な諸課題を解決し、持続可能な社会を目指すためには、どのような国土の在り方が望ましいのか考察する。	第3部 例えば、 (a) 我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。 (b) 我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現している。 (c) 持続可能な国土像についての課題を主体的に探究しようとしている。

科 目	地理特論	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	地理探究『新詳 地理探究』（帝国書院） 『新詳 高等地図』（帝国書院）				
補助教材等	『新編 地理資料 2022』（とうほう） 『ニューコンパスノート地理 2023』（数研出版）				

1 学習の到達目標

「地理総合」で身につけた基礎的な知識や技能を基に、系統地理的学習を進め、地理の学びを一層深める。さらに地域的な枠組みから世界を探究する地誌的学習に入り、世界の多様性に気づき、現代世界の諸課題の現状を理解し、地理的な見方・考え方を通して課題解決のために私たちができることは何かを考える。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 1 テキストや資料集に加え、インターネットや新聞などを活用しながら、最新の状況についてのデータや資料を提供し、世界のリアルな姿を伝えていきます。受講者にも、ニュースなどを通じて世界情勢を理解しようとする積極的な姿勢を求めます。
- 2 様々な地理的な課題の解決に向け、どのように行動すれば良いかを主体的に探究していく姿勢を求めます。
- 3 定期考査のほか、プレゼン発表、レポート作成などを実施する場合があります。
- 4 大学入試共通テストや大学の個別入試で受験科目として選択する人は、授業の進度に合わせて、自分でサブノートをつくったり、問題集に取り組んだりするなど、家庭での復習も必要です。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	世界や日本各地の地域の特色、課題を理解し、基本的な地名・地域名・用語などを身につけている。資料集や教科書、新聞などを見ながら資料やグラフ・統計・地図を読み取り、整理し、まとめることができる。	自分の考えをまとめ、表現・発表することができる。また他者の発表をもとに、自分の考えをさらに深めることができる。	普段から新聞やニュース番組に触れ、地域や日本、世界の状況に関心を持っている。授業内容を踏まえ自分の意見をまとめ、授業に積極的に参加できる。
主な評価方法	・定期考査 ・授業内での発問に対する回答など	・定期考査 ・提出課題 ・プレゼン発表 ・授業内での発問に対する回答など	・授業中の学習への取り組み ・課題への取り組み ・グループ討議

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5 月	第1部 現代世界の 系統地理的 考察 第3章 交通・通信 と観光、貿 易	上述の教科書 と副教材	15	① 交通網や通信網の発達には、どのような傾向や地域性、地域間格差が現れているのか考察する。 ② 観光にはどのような特徴や利点があり、どのような課題があるのか考察する。 ③ 拡大を続ける世界の貿易に、なぜ地域性や地域間格差が現れているのか考察する。	例えば、 (a) 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 (b) 交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。 (c) 交通・通信、観光についての課題を主体的に追究しようとしている。
6 月	第4章 人口、村落・都市	上述の教科書 と副教材	15	① 世界各地の人口の分布や年齢別構成、移動には、どのような特徴がみられるのか考察する。 ② 先進国と発展途上国で、出生率の高低や高齢化の進行にどのような違いが表れているのか考察する。 ③ 村落や都市の立地や形態、変容のしかたにみられる傾向や規則性、また、国や地域によって異なる地域性を理解する。 ④ 都市が持続的に発展していくためには、どのような課題があるのか。また、それらを解決するための取り組みを理解する。	例えば、 (a) 人口、都市・村落などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 (b) 人口、都市・村落などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。 (c) 人口、村落・都市の課題を主体的に追究しようとしている。

7 8 9 月	第5章 生活文化、 民族・宗教	上述の教科書 と副教材	18	① 伝統的な衣食住の生活文化にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きとどのように関わっているのか考察する。 ② 民族や宗教の独自性はどのようにとらえることができ、各地にみられる民族問題の背景とどのように関わっているのか考察する。 ③ 領域が定められたり、その領域が変更されたり、国家が新たに誕生したりすることで、どのような問題が起こっているのか考察する。	例えば、 (a) 生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 (b) 生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。 (c) 生活文化、民族・宗教についての課題を主体的に追究しようとしている。
10 11 月	第2部 現代世界の 地誌的考察 第1章 現代世界の 地域区分 第2章 現代世界の 諸地域	上述の教科書 と副教材	18	① 諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解する。 ② 地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解する。 ③ 地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察する。 ④ 現代世界の諸地域でみられる課題を追究する。	例えば、 (a) 世界の諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などを理解している。地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解している。 (b) 地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。 (c) 現代世界の諸地域でみられる課題を主体的に追究しようとしている。
12 月 ～	第2章 現代世界の 諸地域（続 き） 第3部 現代世界に おけるこれ からの日本 の国土像 第1章 持続可能な 日本の国土 像の研究	上述の教科書 と副教材	30	第3部 ① 日本の強みをより生かせる将来について考え、持続可能な社会を構築していくには、どのようなことに取り組めばよいか考察する。 ② 現代の日本の社会が抱える地理的な諸課題を解決し、持続可能な社会を目指すためには、どのような国土の在り方が望ましいのか考察する。	第3部 例えば、 (a) 我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。 (b) 我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現している。 (c) 持続可能な国土像についての課題を主体的に探究しようとしている。

令和 7 年度 公 民 科 シラバス

科 目	倫理	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	3 学年・全クラス
使用教科書	「倫理」（東京書籍）				
補助教材等	「アプローチ倫理資料 PLUS」（とうほう）				

1 学習の到達目標

(1) 知識・理解 倫理の用語、知識を身につけ、資料を適切に読み取ることができる（知識・技能）
(2) 倫理的問題に対して、自らの発想で問題解決の方法を探ることができる。また、それを言語によって表現することができる（思考・判断・表現）
(3) 倫理的問題に対して、自ら問題を深め、研究することができる（主体的に学習に取り組む態度）

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○これまでに皆さんがあまり触れてこなかったであろう抽象的な思想を取り扱います。最初は慣れないこともあるかもしれませんが、自分自身で考えることを通して様々な思想への理解を少しずつ深めていってください。
○問題集はありませんので、単元テストなどの際は教科書・資料集・授業で配布するプリントなどを使って勉強してください。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	知識・理解 倫理の用語、知識を身につけたか。資料を読み取ることができるか。	倫理的問題に対して、自らの発想で問題解決の方法を探ることができるか。また、それを言語によって表現できるか。	倫理的問題に対して、自ら問題を深め、研究することができるか。
主な評価方法	・ペーパーテスト（知識及び理解を問う問題）の結果	・ペーパーテスト（思考・判断・表現を問う問題）の結果 ・レポートの記述	・グループでの話し合い活動の態度。発言内容。 ・生徒自身による自己評価 ・授業中の取り組み

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5	人間の心のあり方/ギリシャ思想	上述の教科書と副教材	10	○人間とは何か 人間の特質/青年期の課題 ○人間の心の働き 認知/感情と個性/発達 ○ギリシャの思想 哲学の誕生と自然哲学/ソクラテスとソフィスト/プラトン/アリストテレス/ヘレニズム・ローマ時代の思想	例えば 人間の特質や青年期の課題，認知，感情と個性，発達という人間の心の働きについて理解し，他者と共によりよく生きる人間のあり方について，適切な知識を習得している。(a) ・人間の特質や青年期の課題，認知，感情と個性，発達という人間の心の働きについて多面的・多角的に考察し，他者と共によりよく生きる人間のあり方について，思索を深めている。(b) ・理解したこと，考察したことなどを適切な方法で表現している。(c)

6 7 8	仏教/キリスト教/近代と人間尊重の精神	上述の教科書と副教材	14	○宗教と社会 ○仏教 古代インドの思想/ブッダの思想/仏教の展開 ○キリスト教 『旧約聖書』の倫理/イエスの教え/キリスト教の展開	例えば 幸福, 愛, 徳, 善, 正義, 義務, 真理, 存在などに着目してキリスト教, 仏教, 人生における宗教や芸術の意義について理解している。(a) ・幸福, 愛, 徳, 善, 正義, 義務, 真理, 存在などに着目して, キリスト教, 仏教, 宗教や芸術に見られるさまざまな人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察することを通じて, 人間としての在り方生き方や社会の在り方, 世界の在り方について思索を深めている。(b) ・幸福, 愛, 徳, 善, 正義, 義務, 真理, 存在などに着目して, キリスト教, 仏教の思想, 宗教や芸術に見られるさまざまな人生観・倫理観・世界観を手がかりに, 人間としての在り方生き方や社会の在り方, 世界の在り方について主体的に探究している。(c)
9 10 11	近代思想の展開/人格の尊厳と人倫の思想/社会変革の思想	上述の教科書と副教材	20	○近代と人間尊重の精神 ○近代思想の展開 新しい学問の方法/経験論と合理論の対話/社会契約説 ○人格の尊厳と人倫の思想 カント/ヘーゲル ○社会変革の思想 功利主義と幸福/社会主義思想/社会の進歩と実証的思想	例えば 幸福, 愛, 善, 自由, 正義, 義務, 真理, 存在などに着目して, 現代の価値観に影響を与えた西洋近現代の諸思想について理解している。(a) ・幸福, 愛, 善, 自由, 正義, 義務, 真理, 存在などに着目して, 現代の価値観に影響を与えた西洋近現代の諸思想について多面的・多角的に考察することを通じて, 人間としての在り方生き方や社会の在り方, 世界の在り方について思索を深めている。(b) ・幸福, 愛, 善, 自由, 正義, 義務, 真理, 存在などに着目して, 現代の価値観に影響を与えた西洋近現代の諸思想を手がかりに, 人間としての在り方生き方や社会の在り方, 世界の在り方について主体的に探究している。(c)
12 ～	人間観・言語観の問い直し/現代の諸課題と倫理	上述の教科書と副教材	20	○理性への疑念 ○人間観・言語観の問い直し 存在への問/新たな知の枠組み/現代思想の展開	例えば 幸福, 愛, 善, 自由, 正義, 義務, 真理, 存在などに着目して, 20 世紀以降の諸思想について, 従来の人間観や世界観, 言語観がどのように問いなおされたかという観点から理解している。(a) ・幸福, 愛, 善, 自由, 正義, 義務, 真理, 存在などに着目して, 20 世紀以降の諸思想を手がかりに, 従来の人間観や世界観, 言語観の問いなおしについて多面的・多角的に考察することを通じて, 人間としての在り方生き方や社会の在り方, 世界の在り方について思索を深めている。(b) ・幸福, 愛, 善, 自由, 正義, 義務, 真理, 存在などに着目して, 20 世紀以降の諸思想による人間観や世界観, 言語観の問いなおしを手がかりに, 人間としての在り方生き方や社会の在り方, 世界の在り方について主体的に探究している。(c)

令和 7 年度 公 民 科 シラバス

科 目	政治経済	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年・全クラス
使用教科書	「政治・経済」（東京書籍）				
補助教材等	「最新政治・経済資料集」（第一学習社）「4 ステージ演習ノート」（数研出版）				

1 学習の到達目標

(1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけます。 (2) 国家および社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や、政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に社会の在り方などについて構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養います。 (3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、日本および国際社会において国家および社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めます。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

世の中について関心を持ち、新聞を読み、ニュースを見る習慣をつけると、単なる用語の暗記ではなく、現代社会や世界に関する認識がより生活実感を伴った認識となると思われる。
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	政治・経済の用語、知識を身につけ、説明することができる。	社会問題に対して、自らの発想で問題解決の方法を探り、それを表現することができる。	社会問題等に対して、自ら疑問を持つことができる。
主な評価方法	・ペーパーテスト（知識及び理解を問う問題）の結果	・ペーパーテスト（思考・判断・表現を問う問題）の結果 ・レポートの記述	・グループでの話し合い活動の態度。発言内容。 ・生徒自身による自己評価 ・授業中の取り組み

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5	1 経済主体と経済の循環 2 生産のしくみと企業 3 市場経	上述の教科書と副教材	30	○家計、企業、政府が行う経済活動について理解する。 ○各経済主体がどのように関わることで経済が循環するのか考察する。 ○日本における株式保有比率が変化してきた理由について理解する。	○家計、企業、政府が行う経済活動について理解している(a) ○各経済主体がどのように関わることで経済が循環するのか考察する。 ○日本における株式保有比率が変化してきた理由について理解してい

	済の機能と限界 4 国民所得と経済成長			○多国籍企業が世界にどのような影響を与えるか話し合う。 ○需要曲線と供給曲線による価格の決定について理解する。 ○市場占有率が高まることによる企業のメリットや、独占や寡占の問題点について話し合う。 ○なぜ物価変動によって得をする場合と損をする場合があるのか理解する。 ○「より良い暮らし指標」をもとに、日本の暮らしにはどのような特徴があるか話し合う。	る(a) ○多国籍企業が世界にどのような影響を与えるか話し合っている。 (bc) ○需要曲線と供給曲線による価格の決定について理解している。(a) ○市場占有率が高まることによる企業のメリットや、独占や寡占の問題点について話し合っている。(bc) ○なぜ物価変動によって得をする場合と損をする場合があるのか理解している。(a) ○「より良い暮らし指標」をもとに、日本の暮らしにはどのような特徴があるか話し合っている。(bc)
6 7 8	5 金融のしくみと機能 6 財政のしくみと機能 1 戦後日本経済の発展 2 日本経済の現状	上述の教科書と副教材	45	○金利の変化が暮らしに与える影響や信用創造のしくみについて理解する。 ○1990年代以降の金融政策とその効果について、諸資料をもとに話し合う。 ○お金をどのように守り、増やし、借りるべきか考察する。 ○金融リテラシーを高めるにはどうすればよいか話し合う。 ○日本の一般会計の歳入と歳出の変化や、プライマリーバランスの重要性について理解する。 ○国際的に突出した債務残高を抱える日本の財政は今後どうあるべきか話し合う。 ○「三種の神器」が急速に普及した時期の日本経済の状況について理解する。 ○日米経済摩擦の対象となった商品はどのように変化したか話し合う。 ○日本の一人あたりGDPの変化の特徴について、他国と比較して理解する。 ○所得格差を解消するためには何が重要か話し合います。・二つの憲法の特徴と相違点について理解する。	○金利の変化が暮らしに与える影響や信用創造のしくみについて理解している。(a) ○1990年代以降の金融政策とその効果について、諸資料をもとに話し合っている。(a) ○お金をどのように守り、増やし、借りるべきか考察している。(b) ○金融リテラシーを高めるにはどうすればよいか話し合っている。(bc) ○日本の一般会計の歳入と歳出の変化や、プライマリーバランスの重要性について理解している。(a) ○国際的に突出した債務残高を抱える日本の財政は今後どうあるべきか話し合っている。(bc) ○「三種の神器」が急速に普及した時期の日本経済の状況について理解している。(a) ○日米経済摩擦の対象となった商品はどのように変化したか話し合っている。(bc) ○日本の一人あたりGDPの変化の特徴について、他国と比較して理解している。(a) ○所得格差を解消するためには何が重要か話し合います。・二つの憲法の特徴と相違点について理解している。(a)
9 10 11	1 貿易と国際収支 2 戦後国際経済体制	上述の教科書と副教材	30	○比較生産費説や、円高・円安のメリット・デメリットについて理解する。 ○統計資料をもとに、日本の国際収支の特徴について考察する。	○比較生産費説や、円高・円安のメリット・デメリットについて理解している。(a) ○統計資料をもとに、日本の国際収

	の展開 3 発展途上国の経済 1 公害と環境保全 2 農業・食料問題 3 中小企業の現状と課題 4 情報化の進展と社会の変化 5 消費者問題 6 雇用と労働問題 7 社会保障と福祉		○先進国から発展途上国への資金の流れがどのようになっているか理解する。 ○貿易自由化を進めることによって生産者などが受ける打撃をどうすれば軽減できるか話し合う。 ○南北間の格差の背景にはどのような歴史的経緯があるか理解する。 ○BRICS 諸国が経済成長を続けている理由について話し合う ○公害問題が発生する理由や、公害を防止する方法について理解する。 ○持続可能な社会の形成のために自分たちにできることは何か考察する。 ○戦後日本の農業政策の展開や、林業や漁業が抱える課題について理解する。 ○これからの日本の農業と食料はどうあるべきか考察する。 ○日本経済における中小企業の地位や、日本の中小企業が抱える課題について理解する。 ○日本経済の活性化のためにどのような中小企業政策が必要か考察する。 ○情報化の進展が社会にもたらしているイノベーションや、「第四次産業革命」が社会生活にもたらす変化について理解する。 ○デジタル社会においてどのようなことに注意すべきか考察する。 ○消費者問題が発生する理由や、消費者保護のために行われている施策について理解する。 ○消費社会において、自分たち消費者にはどのような知識や行動が求められるか考察する。 ○契約を結ぶ際に気をつけるべきことや、消費者トラブルにあった際の対応について理解する。 ○持続可能な社会の形成のために消費生活でできることは何か考察する。 ○労働問題が発生する理由や、憲法や労働三法が保障する労働者の権利について理解する。	支の特徴について考察している。(b) ○先進国から発展途上国への資金の流れがどのようになっているか理解している。(a) ○貿易自由化を進めることによって生産者などが受ける打撃をどうすれば軽減できるか話し合っている。(bc) ○南北間の格差の背景にはどのような歴史的経緯があるか理解している。(a) ○BRICS 諸国が経済成長を続けている理由について話し合っている。(bc) ○公害問題が発生する理由や、公害を防止する方法について理解している。(a) ○持続可能な社会の形成のために自分たちにできることは何か考察している。(b) ○戦後日本の農業政策の展開や、林業や漁業が抱える課題について理解している。(a) ○これからの日本の農業と食料はどうあるべきか考察している。(b) ○日本経済における中小企業の地位や、日本の中小企業が抱える課題について理解している。(a) ○日本経済の活性化のためにどのような中小企業政策が必要か考察している。(b) ○情報化の進展が社会にもたらしているイノベーションや、「第四次産業革命」が社会生活にもたらす変化について理解している。(a) ○デジタル社会においてどのようなことに注意すべきか考察している。(b) ○消費者問題が発生する理由や、消費者保護のために行われている施策について理解している。(a) ○消費社会において、自分たち消費者にはどのような知識や行動が求められるか考察している。(b) ○契約を結ぶ際に気をつけるべきことや、消費者トラブルにあった際の対応について理解している。(a) ○持続可能な社会の形成のために消費生活でできることは何か考察し
--	---	--	---	--

				○雇用・労働問題を取り巻く状況と、これからの日本の雇用のあり方について考察する。 ○自分に合った働き方を実現するためにはどのようなことに考慮すべきか理解する。 ○社会全体の労働条件を向上させるにはどうすればよいか考察する。 ○社会保障制度の発展と変化や、日本の社会保障制度の特徴と課題について理解する。 ○少子高齢社会においてどのような福祉社会を築いていけばよいか考察する。	ている。(b) ○労働問題が発生する理由や、憲法や労働三法が保障する労働者の権利について理解している。(a) ○雇用・労働問題を取り巻く状況と、これからの日本の雇用のあり方について考察している。(b) ○自分に合った働き方を実現するためにはどのようなことに考慮すべきか理解している。(a) ○社会全体の労働条件を向上させるにはどうすればよいか考察している。(b) ○社会保障制度の発展と変化や、日本の社会保障制度の特徴と課題について理解している。(a) ○少子高齢社会においてどのような福祉社会を築いていけばよいか考察する。(b)
--	--	--	--	--	--

教 科	数 学								
学 年	3	科 目	数学C（理Ⅱ）	単位数	2				
担当者	赤堀								
教 材	教科書：高等学校 数学C（数研出版） 問題集兼参考書：チャート式解法と演習数学C（数研出版）								
目 標	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。								
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度					
	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数値化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統一的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					
評価方法	・定期考査 ・単元テスト	・定期考査 ・提出レポートの内容 ・問題演習 ・提出ノートの内容		・授業，学習活動への取り組み ・課題および提出物の状況 ノート，プリント，レポート等					
進行計画（学習の内容）				配当時間					
1 学期	空間ベクトル	空間ベクトル	1．空間の点	1 0 時間	1 学期中間考査				
			2．空間のベクトル						
			3．ベクトルの成分						
			4．ベクトルの内積						
			5．ベクトルの図形への応用						
			6．座標空間における図形						
			問題						
			章末問題						
	複素数平面	複素数平面	1．複素数平面	2 0 時間	2 学期中間考査				
			2．複素数の極形式						
			3．ド・モアブルの定理						
			4．複素数と図形						
			問題						
			章末問題						
			式と曲線	2 次曲線	1．放物線	1 5 時間	1 学期期末考査		
	2．楕円								
	3．双曲線								
	4．2次曲線の平行移動								
	5．2次曲線と直線								
	6．2次曲線の性質								
	問題								
	7．曲線の媒介変数表示								
	8．極座標と極方程式								
	9．コンピュータの利用								
	問題								
	章末問題								
								1 9 時間	2 学期中間考査
総合問題									
					学年末考査				
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意									
① 「予習」→「授業」→「復習」をのサイクルを心がける。									
② 「授業」において理解できない部分などは，授業担当者に積極的に質問すること。									
③ 問題集及び参考書を用いた家庭学習においての「復習」は不可欠。									
④ 演習の時間を確保するために授業の進度等が変更になる場合がある。									
⑤ 「完成ノート」等の課題物は，定期的に提出を求める。									
⑥ 単元テストを定期的実施する。									

教 科	数 学									
学 年	3	科 目	数学C（理Ⅰ）		単位数	2				
担当者	石川									
教 材	教科書：高等学校 数学C（数研出版） 問題集：クリアーⅢ+C「複素数平面、式と曲線」（数研出版）参考書：チャート式解法と演習数学Ⅲ+C（数研出版）									
目 標	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。									
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度					
	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					
評価方法	・定期考査 ・単元テスト		・定期考査 ・提出レポートの内容 ・問題演習 ・提出ノートの内容		・授業、学習活動への取り組み ・課題および提出物の状況 ノート、プリント、レポート等					
進行計画（学習の内容）					配当時間					
1 学期	空間ベクトル	空間ベクトル	1. 空間の点		10 時間					
			2. 空間のベクトル							
			3. ベクトルの成分							
			4. ベクトルの内積							
			5. ベクトルの図形への応用							
			6. 座標空間における図形							
			問題							
			章末問題							
	複素数平面	複素数平面	1. 複素数平面		20 時間					
			2. 複素数の極形式							
			3. ド・モアブルの定理							
			4. 複素数と図形							
			問題							
			章末問題							
			式と曲線	2 次曲線			1. 放物線		1 学期中間考査	
							2. 楕円			
	3. 双曲線									
	4. 2次曲線の平行移動									
	5. 2次曲線と直線									
	6. 2次曲線の性質									
	問題				30 時間					
	媒介変数表示と極座標	7. 曲線の媒介変数表示								
		8. 極座標と極方程式								
		9. コンピュータの利用								
		問題								
		章末問題								
					2 学期中間考査					
総合問題										
					4 時間					
						</				

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	4
学年	3				
担当者	石川				
教材	教科書：高等学校 数学Ⅲ（数研出版） 問題集：クリアーⅢ+C「複素数平面、式と曲線」（数研出版）参考書：チャート式解法と演習数学Ⅲ +C(数研出版)				
目標	極限、微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度		
	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価方法	・定期考査 ・単元テスト ・小テスト	・定期考査 ・単元テスト ・問題演習 ・提出ノートの内容	・授業、学習活動への取り組み ・課題および提出物の状況 ノート、プリント、レポート等		
進行計画（学習の内容）			配当時間		
1学期	関数	関数	1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数 問題 章末問題	30時間	
	極限	数列の極限	1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数 問題		
		関数の極限	4. 関数の極限（1） 5. 関数の極限（2） 6. 三角関数と極限 7. 関数の連続性 問題 章末問題		
	微分法	導関数	1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 問題		
		いろいろな関数の導関数	3. いろいろな関数の導関数 4. 第n次導関数 5. 曲線の方程式と導関数 問題 章末問題		
	微分法の応用	導関数の応用	1. 接線の方程式 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数のグラフ 問題		
		いろいろな応用	5. 方程式、不等式への応用 6. 速度と加速度 7. 近似式 問題 章末問題		
	積分法とその応用	不定積分	1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法と部分積分法 3. いろいろな関数の不定積分 問題		
		定積分	4. 定積分とその基本性質 5. 置換積分法と部分積分法 6. 定積分のいろいろな問題 問題		
		積分法の応用	7. 面積 8. 体積 9. 道のり 10. 曲線の長さ 問題 章末問題		
3学期	問題演習	23時間			学年末考査
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
① 「予習」→「授業」→「復習」をのサイクルを心がける。 ② 「授業」において理解できない部分などは、授業担当者に積極的に質問すること。 ③ 問題集及び参考書を用いた家庭学習における「復習」は不可欠。 ④ 演習の時間を確保するために授業の進度等が変更になる場合がある。 ⑤ 「完成ノート」等の課題物は、定期的に提出を求める。 ⑥ 確認テストや単元テストを定期的に実施する。					

教 科	数学				
学 年	3 学年	科 目	数学特論 A（文）	単位数	3
担当者	①牛山 ②三村 ③金井				
達成目標	数学Ⅰ・Aの基本的な内容の定着に努めながら、発展的な問題でその知識を用いて解決できるような力を身に付ける。また、マーク式の問題演習をすることを通して数学的思考力をつける。				
教 材	新課程 大学入学共通テスト対策／基本と演習 数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B・C 標準演習 PLAN 100(数研出版)				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、解決の過程や結果を批判的に考察したり判断したりする力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
主な評価方法	・ 定期考査 ・ 単元テスト	・ 定期考査 ・ 単元テスト ・ 解法のプレゼン ・ グループでの話合い		・ 単元テスト ・ 演習時の取り組み ・ 演習の記述内容	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	・ 「数と式・集合と命題」の復習と問題演習 ・ 「2次関数」の復習と問題演習			15 時間	
	・ 「2次関数」の復習と問題演習 ・ 「図形と計量」の復習と問題演習		期末考査	15 時間	
2 学期	・ 「データの分析」の復習と問題演習 ・ 「場合の数と確率」の復習と問題演習		中間考査	23 時間	
	・ 「図形の性質」の復習と問題演習 ・ 「数学と人間の活動」の復習と問題演習		期末考査	22 時間	
3 学期	・ 数学ⅠAの総合問題の演習		期末考査	30 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
①基礎事項の理解や諸課題を解決する力が身についたかどうかを評価する。 定期考査以外に、確認テストや到達度テストなども行う。 ②演習が中心となるので問題演習に対する主体的・積極的な取り組みが重要となる。 ③課題の提出については、重要視されるので注意する。					

教 科	数学				
学 年	3 学年	科 目	数学特論 A	単位数	3
担当者	①三村 ②牛山				
達成目標	数学Ⅰ・Aの基本的な内容の定着に努めながら、発展的な問題でその知識を用いて解決できるような力を身に付ける。また、記述式・マーク式など様々な場面で知識を活用できるようになる。				
教 材	新課程 リンク数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B・C〔ベクトル〕 受験編 approach＋basic＋challenge＋development (数研出版)				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、解決の過程や結果を批判的に考察したり判断したりする力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
主な評価方法	・ 定期考査 ・ 単元テスト	・ 定期考査 ・ 単元テスト ・ 解法のプレゼン ・ グループでの話合い		・ 単元テスト ・ 演習時の取り組み ・ 演習の記述内容	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	・ 「数と式・集合と命題」の復習と問題演習 ・ 「2次関数」の復習と問題演習			15 時間	
	・ 「2次関数」の復習と問題演習 ・ 「図形と計量」の復習と問題演習		期末考査	15 時間	
2 学期	・ 「データの分析」の復習と問題演習 ・ 「場合の数と確率」の復習と問題演習		中間考査	23 時間	
	・ 「図形の性質」の復習と問題演習 ・ 「数学と人間の活動」の復習と問題演習		期末考査	22 時間	
3 学期	・ 数学ⅠAの総合問題の演習		期末考査	30 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
①基礎事項の理解や諸課題を解決する力が身についたかどうかを評価する。 定期考査以外に、確認テストや到達度テストなども行う。 ②演習が中心となるので問題演習に対する主体的・積極的な取り組みが重要となる。 ③課題の提出については、重要視されるので注意する。					

教 科	数学				
学 年	3 学年	科 目	数学特論 B	単位数	2
担当者	石川				
達成目標	数学Ⅱ・B・Cの基本的な内容の定着に努めながら、発展的な問題でその知識を用いて解決できるような力を身に付ける。				
教 材	新課程 大学入学共通テスト対策／基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C 標準演習 PLAN 100 (数研出版)				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
主な評価方法	・ 定期考査 ・ 単元テスト	・ 定期考査 ・ 単元テスト ・ グループでの話し合い、解法のプレゼン	・ 単元テスト ・ 演習時の取り組み ・ 演習の記述内容		
進行計画（学習の内容）					配当時間
1 学期	・ 「式と証明」の復習と問題演習 ・ 「図形と方程式」の復習と問題演習				10 時間
	・ 「図形と方程式」の復習と問題演習 ・ 「三角関数」の復習と問題演習	期末考査			10 時間
2 学期	・ 「指数関数・対数関数」の復習と問題演習 ・ 「微分法と積分法」の復習と問題演習 ・ 「数列」の復習と問題演習	中間考査			15 時間
	・ 「ベクトル」の復習と問題演習 ・ 「統計的な推測」の復習と問題演習 ・ 数学ⅡB Cの総合問題の演習	期末考査			15 時間
3 学期	・ 数学ⅡB Cの総合問題の演習	期末考査			20 時間
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
①基礎事項の理解や諸課題を解決する力が身についたかどうかを評価する。 定期考査以外に、確認テストや到達度テストなども行う。 ②演習が中心となるので問題演習に対する主体的・積極的な取り組みが重要となる。 ③課題の提出については、重要視されるので注意する。					

教 科	数学				
学 年	3 学年	科 目	応用数学特論	単位数	2
担当者	服部				
達成目標	数学Ⅰ・Aおよび数学Ⅱ・B・Cの基本的な内容の定着に努めながら、数学全般の知識を用いて問題解決ができるような力を身に付ける。				
教 材	新課程 キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C〔ベクトル〕受験編（数研出版）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
主な評価方法	・ 定期考査 ・ 単元テスト	・ 定期考査 ・ 単元テスト ・ グループでの話し合い、解法のプレゼン		・ 単元テスト ・ 演習時の取り組み ・ 演習の記述内容	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	数学Ⅱ B Cを中心とした学習内容の復習と問題演習			10 時間	
	数学Ⅱ B Cを中心とした学習内容の復習と問題演習		期末考査	10 時間	
2 学期	数学Ⅰ Aを中心とした学習内容の復習と問題演習		中間考査	15 時間	
	数学Ⅰ Aを中心とした学習内容の復習と問題演習		期末考査	15 時間	
3 学期	数学Ⅰ AⅡ B Cの総合問題演習		期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
①基礎事項の理解や諸課題を解決する力が身についたかどうかを評価する。 定期考査以外に、確認テストや到達度テストなども行う。					
②演習が中心となるので問題演習に対する主体的・積極的な取り組みが重要となる。					
③課題の提出については、重要視されるので注意する。					

教 科	数学				
学 年	3 学年	科 目	基礎数学特論	単位数	2
担当者	金井				
達成目標	数学Ⅰ・Aの基本的な問題が公式や定理を用いて解決できるような力を身に付ける。				
教 材	数学Ⅰ・A 標準問題精選（中部日本教育文化会）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
主な評価方法	・ 定期考査 ・ 単元テスト	・ 定期考査 ・ 単元テスト ・ グループでの話し合い、解法のプレゼン		・ 単元テスト ・ 演習時の取り組み ・ 演習の記述内容	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	・ 数学Ⅰを中心とした学習内容の復習			10 時間	
	・ 数学Ⅰを中心とした学習内容の復習	期末考査		10 時間	
2 学期	・ 数学Ⅰを中心とした学習内容の復習	中間考査		15 時間	
	・ 数学Aを中心とした学習内容の復習	期末考査		15 時間	
3 学期	・ 数学ⅠAを統合した問題の演習	中間考査		20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
①基礎事項の理解や諸課題を解決する力が身についたかどうかを評価する。 定期考査以外に、確認テストや到達度テストなども行う。 ②演習が中心となるので問題演習に対する主体的・積極的な取り組みが重要となる。 ③課題の提出については、重要視されるので注意する。					

教 科	理科				
学 年	3 学年	科 目	化学	単位数	4
担当者	金井				
達成目標	物質やその変化に関する、体系化された理論や構造・性質などを学ぶ。				
教 材	教科書：化学（実教出版） 問題集：新インプレス（浜島書店） セミナー化学＋化学基礎（第一学習社） 授業プリント				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	無機化合物・有機化合物について、化学の考え方、構造、性質について、基本的な用語をはじめ、知識の習得と理論的な反応の理解、実験操作の基本的な技術の習得を身に着けようとしている。	化学の実験観察や理論から複合的に思考し、問題解決や事象の判断による正確な文章あるいは口頭説明による表現力を培おうとしている。	実験観察への積極的な取り組みや考察、疑問点の洗い出しなどの他に多くの問題に積極的に取り組むことで理解を深めようとしている。		
主な評価方法	考查・単元テスト	考查・実験レポート	課題・提出物		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	無機物質(金属元素)	中間考查	20 時間		
	有機化合物(脂肪族化合物)	期末考查	20 時間		
2 学期	有機化合物(芳香族化合物)/高分子化合物	中間考查	30 時間		
	高分子化合物/問題演習	期末考查	30 時間		
3 学期	演習	期末考查	40 時間		
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
2 年化学の続きから化学の全範囲を学習する。その後、化学・化学基礎の復習を行う。教科書の問題を中心に解説する。問題集などで知識を定着させること。フラットファイルを用意するので、プリントやレポートの管理をきちんと行うこと。					

教 科	理科				
学 年	3学年	科 目	物理	単位数	4
担当者	小根山				
達成目標	自然界における物理現象を記述する法則が数学的に表されることを学習する				
教 材	教科書：改訂 高等学校 物理（第一学習社） 問題集：四訂版 リードα 物理基礎＋物理（数研出版）、ビーライン物理（第一学習社） その他：授業で配布するプリント				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	2年で身につけた物理に関する知識をもとに、物理現象、特に電磁気のような目に見えない現象を数学的に理解しようとしている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考・判断し表現しようとしている。		実験観察への積極的に取り組むことで理解を深めようとしている。	
主な評価方法	考查、実験レポート、問題演習課題	考查、実験レポート		考查、問題演習課題、実験レポート	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	波動		中間考查	20 時間	
	コンデンサー		期末考查	20 時間	
2 学期	ローレンツ力・電磁誘導・交流		中間考查	30 時間	
	原子		期末考查	30 時間	
3 学期	問題演習		期末考查	40 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
・繰り返し問題演習に取り組むことで、計算力を身に付けてほしい。 ・授業のペースが非常に早いので、普段から復習し、知識を定着させることを心掛けてほしい。 ・実験やグループワーク等には、興味関心を持ち、意欲的に参加してほしい。					

教 科	理科				
学 年	3 学年	科 目	化学基礎特講	単位数	2
担当者	3 学年担当 理科教諭				
達成目標	化学基礎の内容を復習によりまとめ、問題演習を通して、大学入学共通テストで化学基礎を受験する者を対象に必要な実力を養うことを目標とする。				
教 材	教科書：化学基礎（実教出版）※1年次使用したもの 問題集：チェック＆演習化学基礎2025（数研出版）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	・ 基本的な用語、法則を理解している。	・ 観察, 実験の基本操作と科学的に探究する技能を身に付けようとしている。		・ 化学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。・課題をこなし成果を提出している。・前向きに授業参加している。	
主な評価方法	・ 考查	・ 考查		・ 課題、提出物 ・ 実験および実験レポート ・ 単元テスト	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	物質の構成粒子		中間考查	10 時間	
	粒子の結合		期末考查	10 時間	
2 学期	化学反応・中和反応		中間考查	15 時間	
	酸化・還元		期末考查	15 時間	
3 学期	大学入学共通テスト対策問題演習		期末考查	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
・ 用語や法則を理解し、それを使って化学の事物・現象を考えていくことになる。授業で解説した問題の類題を次回授業で確認する。問題集などを反復して取り組み、知識の定着に努めて欲しい。					

教 科	理科				
学 年	3 学年	科 目	生物基礎特講	単位数	2
担当者	3 学年担当 理科教諭				
達成目標	生物基礎の内容を復習によりまとめ、問題演習をとおして、共通テストで生物基礎を受験する者を対象に必要な力を養うことを目標とする。				
教 材	教科書：高等学校生物基礎（数研出版） 問題集：チェック＆演習生物基礎（数研出版） ※必要に応じて授業プリント等も利用する。				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	基本的な用語、法則を理解している。	生物に関わる事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しようとしている。		生物や生物現象に関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。	
主な評価方法	・ 考査 ・ 課題 ・ 単元テスト		・ 考査		・ 課題
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	復習および基礎問題演習		中間考査	10 時間	
	復習および基礎問題演習		期末考査	10 時間	
2 学期	応用問題演習		中間考査	15 時間	
	応用問題演習		期末考査	15 時間	
3 学期	共通テスト対策問題演習		期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
生物を学ぶためには、先ず基礎知識が必要である。キーワードをよく理解し、それを使って生命現象を考えていくことになる。問題集などを反復して取り組み、知識の定着に努めて欲しい。					

教 科	理科				
学 年	3 学年	科 目	地学基礎特講	単位数	2
担当者	3 学年担当 理科教諭				
達成目標	地学基礎の内容を復習によりまとめ、応用的な問題についての問題演習を通して、共通テスト等で地学基礎を受験する者を対象に必要な実力を養うことを目標とする。				
教 材	教科書：地学基礎（啓林館）、問題集：セミナー地学基礎（第一学習社）、チェック＆演習地学基礎（数研出版）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	地学基礎における基本的な用語、法則を理解している。観察実習の基本操作と科学的に探究する技能を身につけようとしている。	地学に関わる事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しようとしている。	地学分野の様々な現象に関心を持ち、積極的に調査及び学習に取り組もうとしている。		
主な評価方法	・ 考查 ・ 課題	・ 考查 ・ 課題	・ 提出物 ・ 課題		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	復習および基礎問題演習		期末考查	20 時間	
2 学期	復習および基礎問題演習		中間考查	15 時間	
	応用問題		期末考查	15 時間	
3 学期	共通テスト対策問題演習		期末考查	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
地学を学ぶためには、用語の意味をよく理解し、それを使って地学現象を考えていくことになる。問題集などを反復して取り組み、知識の定着に努めて欲しい。また、計算問題についてはそのノウハウを身に付けてほしい。					

令和 7 年度 保 健 体 育 科 シラバス

科 目	体育	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	なし				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

① 様々な運動を経験し、各種目に対する技術及び理論を習得する。また、健康の増進と体力の向上を図る。【知識及び技能】
② 運動の楽しさを感じることで生涯にわたってスポーツと関わる力を身につける。 【知識及び技能】
③ 他者と関わりながら体を動かすことに関して、自分の考えを広げたり、表現したりすることができる。【思考力・判断力・表現力】
④ 主体的に参加・運営することで積極的に運動に関わる態度を学ぶ。 【主体的に学習に取り組む態度】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○運動に積極的に取り組むこと
○他者との関わりを大切にし、お互いでアドバイスをするなどの活動を通してスポーツの楽しさを感じる
○安全に配慮して活動に取り組むこと（装飾品等を身につけない）
○実技科目であるので、出欠席・遅刻・早退状況を重視する
○授業の服装については学校指定のジャージ、シューズの着用を原則とする
○体育理論は教室での座学とし、知識理解度を評価するためのプリント提出を課す

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・各種目のルールを理解し、運動の特性に応じた技能を身につけられたか。 ・自分及び仲間の安全に留意し実践できるか。	・合理的な練習方法や練習計画の立て方を理解し、知識を身につけることができたか。 ・自己や他者の能力を知り、解決に向け工夫や声かけができていくか。	・ルールやマナーを含めフェアプレイの精神で競技に取り組めたか。 ・積極的に準備や片付けを行い、自分及び仲間の安全に配慮できたか
主な評価方法	・タイム測定 ・実技テスト ・試合の様子	・練習の様子 ・実技テスト ・試合の様子 ・課題への取り組み	・授業へ取り組む姿勢 ・出欠席の状況 ・自己評価（振り返りシート）

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	2 0 時間	男女共通：体づくり運動 陸上競技 スポーツテスト 男子：ソフトボール／バレーボール 女子：テニス／バレーボール	【ネット型競技】 ・自分の身体や道具を使い、空いているスペースを有効に狙うことができる。また有効なスペースを作り出すことができる。(a) ・狙ったところにシャトルやボールなどをコントロールできている。(a) 【ゴール型競技】 ・空いているスペースを有効に使い、ノーマークを作り出したり効率よくシュートなどが打てたりしている。(a) ・スペースを作り出すための動きができる。(a) ・狙ったところにボールなどをコントロールできている。 【ベースボール型競技】 ・自分の身体や道具を使い、効率よく進塁するためにボールなどをコントロールしている。(a) ・キャッチやスローが正確にできる。(a) 【共通（その他の種目）】 ・課題解決ができ、技能や記録が向上したか。(a) ・運動の特性に応じた技能を身につけられたか。(a) ・ルールを理解できたか。(a) ・合理的な練習方法や練習計画の立て方を考えたり実践したりできたか。(b) ・自己や他者の能力に関心を持ち、課題解決のためにアイデアを出したり工夫したりしたか。(b) ・自分の身体に関心を持ち、苦手な運動であっても上達するために努力をおこなっているか。(c) ・ルールやマナーを含めフェアプレイの精神で各種目に取り組めたか。(c) ・準備片付けに積極的に取り組めたか。(c) ・自分及び仲間の安全に配慮できたか。(c)
2 学期	2 4 時間	男女共通：水泳（選択） 陸上競技（選択） 体育理論 選択Ⅰ期・Ⅱ期 男子：サッカー／バレーボール 女子：ソフトボール／バレーボール バドミントン／テニス	
3 学期	2 0 時間	男女共通：陸上競技 選択Ⅰ期・Ⅱ期 男子：サッカー／バレーボール 女子：ソフトボール／バレーボール	

令和 7 年度 保 健 体 育 科 シラバス

科 目	発展体育	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	なし				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

① 体育・健康系大学への進学や、社会体育でのスポーツ指導員を目指す者が様々なスポーツを経験し、より高度な技術及び理論を習得する。【知識及び技能】
② スポーツの楽しさを感じることで生涯にわたってスポーツと関わる力を身につける。 【知識及び技能】
③ 他者と関わりながらスポーツに関して、自分の考えを広げたり、表現したりすることができる。 【思考力・判断力・表現力】
④ 主体的に参加・運営することで積極的にスポーツに関わる態度を学ぶ。 【主体的に学習に取り組む態度】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○運動に積極的に取り組むこと
○他者との関わりを大切にし、お互いをリスペクトするなどの活動を通してスポーツの楽しさを感じる
○安全・安心に配慮した環境で活動に取り組むこと
○実技科目であるので、出欠席・遅刻・早退状況を重視する
○授業の服装については学校指定の物とし、装飾品等は身に着けないこととする

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・課題解決ができ、技能や記録が向上したか。 ・運動の特性に応じた技能を身につけられたか。 ・ルールを理解できたか。	・合理的な練習方法や練習計画の立て方を考えたり実践したりできたか。 ・自己や他者の能力に関心を持ち、課題解決のためにアイデアを出したり工夫したりしたか。	・ルールやマナーを含めフェアプレイの精神で各種目に取り組めたか。 ・準備片付けに積極的に取り組めたか。 ・自分及び仲間の安全に配慮できたか。
主な評価方法	・実技テスト ・練習や試合の様子	・授業態度 ・課題 ・グループワーク	・出欠の状況 ・授業態度 ・服装等 ・自己評価（振り返りシート）

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	2 0 時間	バドミントン バレーボール テニス	【ネット型競技】 ・自分の身体や道具を使い、空いているスペースを有効に狙うことができる。また有効なスペースを作り出すことができる。(a) ・狙ったところにシャトルやボールなどをコントロールできている。(a) 【ゴール型競技】 ・空いているスペースを有効に使い、ノーマークを作り出したり効率よくシュートなどが打てたりしている。(a) ・スペースを作り出すための動きができる。(a) ・狙ったところにボールなどをコントロールできている。
2 学期	3 0 時間	ニュースポーツ 水泳 バスケットボール サッカー・フットサル	【ベースボール型競技】 ・自分の身体や道具を使い、効率よく進塁するためにボールなどをコントロールしている。(a) ・キャッチやスローが正確にできる。(a) 【共通（その他の種目）】 ・課題解決ができ、技能や記録が向上したか。(a) ・運動の特性に応じた技能を身につけられたか。(a) ・ルールを理解できたか。(a) ・合理的な練習方法や練習計画の立て方を考えたり実践したりできたか。(b) ・自己や他者の能力に関心を持ち、課題解決のためにアイデアを出したり工夫したりしたか。(b)
3 学期	2 0 時間	トレーニング法 受験対策等	・自分の身体に関心を持ち、苦手な運動であっても上達するために努力をおこなっているか。(c) ・ルールやマナーを含めフェアプレイの精神で各種目に取り組めたか。(c) ・準備片付けに積極的に取り組めたか。(c) ・自分及び仲間の安全に配慮できたか。(c)

教 科	芸術				
学 年	3 学年	科 目	音楽Ⅲ	単位数	3
担当者	清 住 真 達				
達成目標	音楽の諸活動をとおして、技能を高め、音楽的理解を深めるとともに、音楽に対する豊かな感性と音楽文化を尊重する態度を育てる。				
教 材	Joy of Music（教育芸術社）、愛唱歌集、音楽通論など				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	・表現および鑑賞に必要な音楽理論・音楽史を理解できたか。 ・個々の能力に応じた音楽技能を高めることができたか。	・音楽作品の特質をより深く理解し、掘り下げ、それを表現に繋げることができたか。 ・他の生徒の感じ方や考え方を尊重し共有また協調することができたか。		・自ら進んで積極的に課題に取り組むことができたか。 ・自らの課題を設定することができたか。	
主な評価方法	・実技テスト ・楽典小テスト ・授業観察	・課題提出 ・授業観察 ・実技テスト		・課題提出 ・授業観察 ・授業日誌	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	楽典・ソルフェージュ① 歌唱・簡易な合唱		中間考査	15 時間	
	楽典・ソルフェージュ② 音楽史・鑑賞①		期末考査	15 時間	
2 学期	楽典・ソルフェージュ③ 音楽史・鑑賞②		中間考査	23 時間	
	楽典・ソルフェージュ④ 合唱・器楽アンサンブル・弦楽合奏		期末考査	22 時間	
3 学期	発表会計画・準備および練習		中間考査	15 時間	
	まとめの発表会		期末考査	15 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
2年間の音楽で積み重ねた経験を生かし、より発展的な学習を行なう。音程や音階、調の種類などの楽典や、鑑賞などをととし、音楽の構造について探究していく。また歌唱、合唱では発声を深めていき、ア・カペラ合唱等も扱う。最後に3年間のまとめの発表会を行なう。発表会の内容および練習は、選曲も含め自分たちで立案する。					

教 科	芸術				
学 年	3学年	科 目	実用音楽	単位数	2
担当者	清 住 真 達				
達成目標	音楽の諸活動を通して技能を高め、音楽的理解を深めるとともに、音楽に対する豊かな感性と音楽文化を尊重する態度を育てる。個人の目標に合わせたピアノ実技の上達、初歩的なソルフェージュと読譜力を向上を目指す。				
教 材	プリントなど				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	音楽表現の技能を高めるとともに、その表現を裏付ける理論の理解が深まったか。	自分の音楽経験に基づく課題の選択が出来たか。		自ら課題を見つけ到達目標に向け計画的に取り組むことが出来たか。	
主な評価方法	・課題提出 ・実技テスト ・		・課題提出 ・授業観察 ・実技テスト		・授業観察 ・課題提出 ・授業日誌
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	ソルフェージュ、歌唱、楽典基礎		中間考査	10 時間	
	コード理論、実技発表		期末考査	10 時間	
2 学期	童謡唱歌・子どもの歌のコード伴奏		中間考査	15 時間	
	弾き歌い、アンサンブル		期末考査	15 時間	
3 学期	歌唱、合唱		期末考査	20 時間	
	各自の課題に合わせた実技発表				
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
授業で扱う個々の課題は個人の力量や目標を把握した上で設定する。設定された課題を実技発表会まで各自で計画的に取り組む。継続的な取り組みが必要である。 ソルフェージュ、歌唱、合唱等は一斉授業で行なう。					

教 科	芸術				
学 年	3	科 目	美術Ⅲ	単位数	3
担当者	美術科 樋口史華				
達成目標	美術の学習を通して造形的な見方・考え方を養うとともに、美術文化と創造的に関わる資質・能力を育成する。				
教 材	教科書・スケッチブック・絵画用具用材・各種材料等				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	材料や用具、技法、様々な美術作品について正しい知識を身につけられたか	課題の趣旨や材料・用具の特性に応じて、創意工夫を凝らしながら作品を制作できたか。また、自分の作品の制作意図や、友人・作家の作品のよさを言葉にすることができるか	美術に関心を持ち、積極的に取り組むことができたか。作品制作において自らの表現を模索しながら最後まで粘り強く取り組むことができたか		
主な評価方法	・ 作品 ・ 練習課題 ・ ワークシート	・ 作品 ・ 発表、鑑賞	・ 振り返りシート ・ 授業態度 ・ 作品の提出状況		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	絵画 作品制作・鑑賞		中間考査 なし	15 時間	
	デザイン 作品制作・鑑賞 工芸 作品制作・鑑賞		期末考査 なし	15 時間	
2 学期	絵画 作品制作・鑑賞 彫刻 作品制作・鑑賞		中間考査 なし	23 時間	
	卒業制作 作品制作・鑑賞		期末考査 なし	22 時間	
3 学期	卒業制作 作品制作・鑑賞		中間考査 なし	15 時間	
	鑑賞		期末考査 なし	15 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
アートとは「自分だけのものの見方」で世界を見つめ、「自分なりの答え」を生み出し、それを作品として表現することです。ただ作り方を学ぶのではなく「自分だけのものの見方」を試す練習、そして「自分なりの答え」を「作品」として表現する時間だと考えてください。 制作物については、丁寧に作ったか・工夫されているかを重視します。（工夫とは・・・自分で調べる・人に聞く・何度も試す・面白いアイデアを考えるなど）					

教 科	芸術				
学 年	3 学年	科 目	実用美術	単位数	2
担当者	美術科教諭				
達成目標	工芸・デザイン・絵画等の幅広い創造的な諸活動を通して美的体験を豊かにし、芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術文化についての理解を深め、個性豊かな表現力と鑑賞力を身につける。				
教 材	絵画・工芸用具用材・各種材料等				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	材料や用具、技法、様々な美術作品について正しい知識を身につけられたか。またそれを技術として習得できたか。	課題の趣旨や材料・用具の特性に応じて、創意工夫を凝らしながら作品を制作できたか。また、自分の作品の制作意図や、友人・作家の作品のよさを言葉にすることができるか		美術に関心を持ち、積極的に取り組むことができたか。作品制作において自らの表現を模索しながら最後まで粘り強く取り組むことができたか。	
主な評価方法	・ 作品	・ 作品 ・ 発表、鑑賞シート		・ 振り返りノート	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	ガイダンス・計画を立てる デッサン、平面構成など		中間考査 なし	10 時間	
	デッサン、平面構成など		期末考査 なし	10 時間	
2 学期	自己PRできる作品づくり		中間考査 なし	15 時間	
	ポートフォリオ（作品集）作成 色彩検定問題演習など		期末考査 なし	15 時間	
3 学期	[鑑賞]アートゲーム		中間考査 なし	10 時間	
	工芸作品制作		期末考査 なし	10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
この講座では、先生から「次はこれを作りましょう」といった課題は与えられません。取り組む課題は自分自身で決めます。やってみたいこと、もしくは進路のために身につけなければならないことは何かを考え、1人1人が個別に計画を立てて制作に取り組んで行きます。（何をしたら良いか分からない人は、先生と一緒に考えましょう） この授業で、どれだけの知識、技術、表現力を身につけられるかは皆さん次第です。充実した1年になるよう、一緒にがんばりましょう。					

教 科	芸術				
学 年	3 学年	科 目	書道Ⅲ	単位数	3
担当者	書道担当教諭				
達成目標	書道の創造的な表現活動を通して、生涯に亘り書を愛好する心情を育て、生活の中で書の文化や伝統を尊重する態度を育てる。個性豊かに創造する書の技術能力と感性を高める。				
教 材	教科書・プリント・書道用具用材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	教科書に沿った書の古典学習等を通じて基礎知識を身につけること。用具・用材の特徴を理解し、古典臨書学習を中心に学習しながら基本的な技能を身に付けること。	作品制作を通じ書道理論を学習。古典や現代的表現等、多種多様な選択肢の中から自分らしい書を探してもらうこと。それらを通じて自己表現を確立。		創造的活動の喜びを味わい、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。	
主な評価方法	・ 練習課題 ・ ワークシート	・ 作品 ・ ワークシート ・ 発表		・ 自己評価プリント ・ 授業態度	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	日本における書道史（基礎）・書道の意義について	中間考査		15 時間	
	漢字の書の学習（楷書・行書）臨書を中心に	期末考査		15 時間	
2 学期	漢字の書の学習（篆書）臨書を中心に	中間考査		23 時間	
	姓名印の制作	期末考査		22 時間	
3 学期	仮名の書の学習（臨書）	中間考査		15 時間	
	漢字仮名交じりの書の創作	期末考査		15 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
単元ごとに提示された作品を仕上げ提出する（指定された期限までに必ず提出できること）。作品完成に至るまでの工夫や、技能的な向上、研究する姿勢も含め総合的に評価する。技術習得ばかりでなく、鑑賞力・着眼点・豊かな発想なども大切にする。自発的な準備や片付けの協力、及び用具等の管理は自分で責任持ってきちんとすること。					

教 科	芸術				
学 年	3 学年	科 目	実用書道	単位数	2
担当者	書道科教諭				
達成目標	1 文字を正しく美しく書く能力を育てる。 2 毛筆、硬筆学習を通して、日常生活に役立つ実用的な書の表現能力をより一層高める。 3 書道検定などに積極的に挑戦し、その取得を目指す。				
教 材	書道用品・作品制作に必要な各種材料等				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	書の技法、知識を身につけられたか。	創造的な書表現をするために諸要素を感受し、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想や表現を工夫ができたか。		書の伝統と文化に関心をもって、意欲的、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができたか。	
主な評価方法	・ 作品	・ 作品 ・ ワークシート		・ 出席 ・ 作品の提出状況 ・ ワークシート	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	ガイダンス 書と生活、平仮名		中間考査 なし	10 時間	
	楷書、はがき		期末考査 なし	10 時間	
2 学期	行書、早書き（草書）		中間考査 なし	15 時間	
	漢字かな交じりの書		期末考査 なし	15 時間	
3 学期	創作、作品制作		中間考査 なし	10 時間	
	卒業制作		期末考査 なし	10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
書の課題に対して効果的な学習方法を教えます。効果的な学習方法を繰り返し実行、習慣化することが理想。課題達成できない場合は粘り強く課題を繰り返し学習、時には質問をしたり自分で調べることが重要。心技体。一般的に平仮名や漢字は右手で書きます。左利きの人は工夫が必要です。 筆記用具を持ってくるください。					

教 科	英語				
学 年	3学年	科 目	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	4
担当者	学年担当 科教諭				
達成目標	読む、書く、聞く、話すの4技能を向上させ、大学選抜に対応できる英語力を育成する。				
教 材	Vivid English Communication Ⅲ 英単語帳 データベースAVAIL				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	テキストの内容を文法・語法に則り正しく理解できたか。	テキストの内容を踏まえ、世界の状況を理解し、自分の考えを表現することができたか。		グループ学習にも積極的に参加し、意見を共有し合い、問題解決能力を向上させることができた	
主な評価方法	・定期考査（40%） ・単語テスト（10%）		・テキストの内容を深化させ自分の考えを表現できる（30%定期考査または単元テスト）		・グループ内やクラスで意見発表する（パフォーマンステスト20%）
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	レッスン 1 ～ 5		中間考査	20 時間	
	レッスン 6 ～10		期末考査	20 時間	
2 学期	レッスン11～15		中間考査	30 時間	
	レッスン16～20		期末考査	30 時間	
3 学期	卒業に向けての総まとめ		学年末考査	40 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
各自予習の上授業に臨むこと。ワークブックは授業の予習、授業中のノート、復習として各自と取り組む。教科書の他に、各レッスンのテーマに沿う形でのプレゼンテーションやスピーチも行う。データベースAVAILから単語テストを定期的を実施する。					

教 科	英語				
学 年	3学年	科 目	英語表現	単位数	2
担当者	学年担当 科教諭				
達成目標	文法・語法の能力を用い、自分の意見を表現できるようにする。上級学校でも英語力を伸ばしていけるよう、基礎固めを行う。				
教 材	FACTBOOK English Expression III 大学入試ランダムチェック 英文法・語法の総仕上げ The Reflex 即戦ゼミ、リスニングエッセンシャル2、2・5				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	テキストの内容を文法・語法に則り正しく理解できたか。	テキストの内容を踏まえ、世界の状況を理解し、自分の考えを表現することができたか。		グループ学習にも積極的に参加し、意見を共有し合い、問題解決能力を向上させることができたか。	
主な評価方法	・定期考査（40％） ・暗唱例文小テスト（10％）	・テキストの内容を深化させ自分の考えを表現できる（30％定期考査または単元テスト）		・グループ内やクラスで意見発表する（パフォーマンステスト20％）	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	ユニット1～3		中間考査	10 時間	
	ユニット4～6		期末考査	10 時間	
2 学期	ユニット7～12		中間考査	15 時間	
	ユニット13～17		期末考査	15 時間	
3 学期	卒業に向けての総まとめ		学年末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
教科書FACTBOOKⅢは授業にて使用する。The Reflexで問題演習を行い、適宜リスニング活動も入れる。予習をして授業に臨むこと。英文法・語法の暗唱例文小テストを行う。					

令和7年度 英語科 シラバス

科 目	英語特論	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書					
補助教材等	SKYWARD 最新入試英語長文20選 OCEAN Course（桐原書店） SKYWARD 最新入試英語長文20選 CLOUDS Course（桐原書店）				

1 学習の到達目標

- 読解・語い・文法・表現・リスニングなど、様々なタイプの英語の問題演習を通して、以下の5領域に関する英語力を育成することを目指す。
1. 聞くこと：必要な情報を聞き取り，話の展開や話し手の意図を把握することができる。
 2. 読むこと：必要な情報を読み取り，文章の展開や書き手の意図を把握することができる。
 3. 話すこと [やり取り]：多様な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができる。
 4. 話すこと [発表]：多様な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。
 5. 書くこと：多様な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができる。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 最初に英文を一読して大意把握の問題を解きます。その後、もう一度英文を読み、内容理解の問題に取り組みましょう。また、「提出ノート」で英語本文の要約とディクテーションに取り組むことで一層理解が深まります。
- 文法・英作文・表現の問題では基本的な文法の確認・復習と、自分の意見を英語でまとめる練習をすることができます。しっかり予習をして授業に参加してください。
- リスニング問題では、自分で納得できるまでテキストの音声を何度も聞いてください。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観 点の趣 旨	英語の構造やその運用方法について正確に理解し、一定の語彙を習得し、適切に使いこなすことができるか。また、言語の背景にある人々の暮らしや文化、身の回りで起きている出来事などに関心を持ち、理解しているか。	日常的な話題から社会問題まで幅広いテーマについて、情報や考えなどを的確に理解し、学んだ知識や技能を活用して、場面、目的、状況等に応じて、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しているか。	言語能力を身につけるために意識的、計画的に学習に取り組んでいるか。また、自身の学習状況を把握して、計画の見直し、学習方法を工夫しながら、粘り強く学ぼうとしているか。
主な評価方法	◆単元ごとの確認テスト ◆定期考査 ※自己評価・相互評価	◆言語活動の取り組み状況の観察 ◆パフォーマンステスト ◆定期考査での初見問題の出題 ※自己評価・相互評価	◆言語活動の取り組み状況の観察 ◆提出ノートの提出 ◆パフォーマンステスト ※自己評価・相互評価

4 学習及び評価計画

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 項 目
4 5	Unit 1 Unit 7	SKYWARD OCEAN	20	● 英語の長文を読み、設問に答える。 ● 文法の復習 ● 英作文 ● リスニング問題	● ある程度の長文で書かれた英文のテーマを理解する。 ● 文法事項(時制、文型)の復習と確認。 ● 与えられたテーマに従って英文を書く。
6	Unit 8 Unit 11	SKYWARD OCEAN	12	● 英語の長文を読み、設問に答える。 ● 文法の復習 ● 英作文 ● リスニング問題	● ある程度の長文で書かれた英文のテーマを理解する。 ● 文法事項(使役・分詞構文・関係詞)の復習と確認。 ● 与えられたテーマに従って英文を書く。
7 8	Unit 12 Unit 20	SKYWARD OCEAN	20	● 英語の長文を読み、設問に答える。 ● 文法の復習 ● 英作文 ● リスニング問題	● ある程度の長文で書かれた英文のテーマを理解する。 ● 文法事項(比較・仮定法)の復習と確認。 ● 与えられたテーマに従って英文を書く。
9	Unit 1 Unit 5	SKYWARD CLOUDS	14	● 英語の長文を読み、設問に答える。 ● 文法の復習 ● 英作文 ● リスニング問題	● 長文で書かれた英文を一定の速さで読み、理解する。 ● 語い・文法の復習と確認。
10	Unit 6 Unit 10	SKYWARD CLOUDS	13	● 英語の長文を読み、設問に答える。 ● 文法の復習 ● 英作文 ● リスニング問題	● 長文で書かれた英文を一定の速さで読み、理解する。 ● 語い・文法の復習と確認。
11	Unit 11 Unit 15	SKYWARD CLOUDS	14	● 英語の長文を読み、設問に答える。 ● 文法の復習 ● 英作文 ● リスニング問題	● 長文で書かれた英文を一定の速さで読み、理解する。 ● 語い・文法の復習と確認。
12	Unit 16 Unit 20	SKYWARD CLOUDS	12	● 英語の長文を読み、設問に答える。 ● 文法の復習 ● 英作文 ● リスニング問題	● 長文で書かれた英文を一定の速さで読み、理解する。 ● 語い・文法の復習と確認。

令和 7 年度 家 庭 科 シラバス

科 目	フードデザイン	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 年選択
使用教科書	「フードデザイン ～cooking & arrangement～」(教育図書)				
補助教材等					

1 学習の到達目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。【知識及び技能】 (2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。【思考力・判断力・表現力】 (3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○食生活に関する学習を実践的・体験的に学びます。学習目標を意識しながら積極的に授業に参加してください。 ○実習では衛生面に留意し、安全に行うことを第一に考えます。身体を清潔にし、身支度を整えた上で実習に参加してください。 ○日常的な食事の準備や調理、片付けに参加するなど、学習した内容を日常生活の中で実践し、確かな知識や技術を身に付けましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解し、関連する技術が身に付いている。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上に向けて合理的かつ創造的に課題解決に取り組んでいる。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
主な評価方法	・小テスト ・学習プリントの記述内容	・小テスト ・レポートの記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面観察	・授業での行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	食を取り巻く現状	教科書 ワークシート	15	・自分の食生活を振り返ろう	・食事の意義と役割について理解するとともに食生活の現状と課題を把握できている（a） ・食生活に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫
5	栄養素の働き			・栄養素の摂取状況 ・食生活と環境 ・これからの食生活 ・からだの仕組み、栄養素の役割	

	5 大栄養素 調理の基礎 (実習)			・ 5 大栄養素、水 ・ 調理の基礎と下ごしらえの方法	しようとしている (b) ・ 健康と食生活について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている (c)
5 6 7	食品の特徴 食品加工の 目的 食品の選択 と取り扱い 調理の基礎 (実習)	教科書 ワークシート	20	・ 各食品の特徴 ・ 安全性・栄養性・おいしさの向上 ・ 食品の選択 ・ 食品の衛生と安全 ・ 基礎実技と基礎調理	・ 各食品の特徴について理解している (a) ・ フードデザインの構成要素について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫しようとしている (b) ・ フードデザインの構成要素について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている (c)
8 9 10	調理の基本 ライフステージと食事 献立作成 日常食 (実習)	教科書 ワークシート	21	・ 調理の目的、調理操作 ・ ライフステージと栄養 ・ 献立作成 ・ 日常食の基本	・ 食事のテーマに応じた献立作成と調理について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている (a) ・ 食事計画についての課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫しようとしている (b) ・ フードデザイン実習について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている (c)
10 11	様式別の 献立と調理 食文化を見 つめる 様式別調理 (実習)	教科書 ワークシート	20	・ 日本料理 ・ 西洋料理 ・ 中国料理 ・ 各料理のマナーと基本的なサービスの方法 ・ 郷土料理、行事食 ・ 日本料理、西洋料理、中国料理	・ 食事のテーマに応じた献立作成、食材の選択と調理について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている (a) ・ 食事計画についての課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫しようとしている (b) ・ フードデザイン実習について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている (c)
11 12	テーブル コーディネート 応用調理 (実習)	教科書 ワークシート	20	・ たのしい食卓づくり ・ 日本料理のテーブルコーディネート ・ 西洋料理のテーブルコーディネート ・ 食事計画と応用調理	・ 食事のテーマに応じた献立作成、食材の選択と調理について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている (a) ・ 食事計画についての課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫しようとしている (b) ・ フードデザイン実習について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組もうとしている (c)

令和 7 年度 家 庭 科 シラバス

科 目	服飾文化	単位数	4	履修学年・クラス（講座）	3 年選択
使用教科書	「服飾文化」（教育図書）				
補助教材等					

1 学習の到達目標

被服の基本型と文化、服飾の変遷や日本の服飾文化、着装などに関する知識を学び、服飾文化の伝承と創造する力を豊かにする。また、被服製作における基本的・専門的知識と技術を身につけることを目指す。

- (1) 服飾の変遷と文化、着装などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。【知識及び技能】
- (2) 服飾文化に関する課題を発見し、服飾文化の伝承と創造の担い手として、合理的かつ創造的に解決する力を養う。【思考・判断・表現】
- (3) 豊かな衣生活の実現を目指して自ら学び、服飾文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。【主体的に学習に取り組む態度】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 製作実習が多いので、欠席せず、その授業の課題はその時間に終わらせるように授業に集中してください。予定通り作業が進まない場合でも、作品を持ち帰っての作業はできません。学校で製作し、期限までに提出してください。また、丁寧にきれいに作ることに努力を惜しまず取り組みましょう。
- 授業内で作品製作や服飾文化に関する小テストを実施します。製作の際は、その作業をする意味を意識しながら製作に取り組むことで、製作技術に関する知識が定着します。
- 服飾文化に関する調べ学習では、テーマを決めて探究した内容をプレゼンテーションします。
- 提出物（作品、レポート等）は提出期限までに提出できるよう、計画的に進めてください。
- 持ち物
 - ・各自の裁縫セット ・タブレット ・筆記用具
 - ・作品の材料（布、糸、接着芯等） ※必要な用具や材料の詳細は授業で指示します。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	衣服の構成・文化について理解し、基礎的技能が身につけている。	服飾文化や衣服製作に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	豊かな衣生活の実現を目指して自ら学び、衣服の構成に関心を持ち、服飾文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
主な評価方法	・作品製作 ・ワークシート ・小テスト	・作品製作 ・調べ学習 ・プレゼンテーション	・作品製作 ・プレゼンテーション

4 学習計画

1学期	・製作の基本(小物の製作) ・下衣の製作 ・和裁の基礎	20 時間
2学期	・日本の服飾文化 ・和裁の作品製作	48 時間
3学期	・洋裁の基礎（立体構成） ・上衣の製作	20 時間

令和 7 年度 家 庭 科 シラバス

科 目	保育基礎	単位数	4	履修学年・クラス（講座）	3 年選択
使用教科書	「保育基礎」（実教出版）				
補助教材等					

1 学習の到達目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。【知識及び技能】
- (2) 子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 保育に関する学習内容の理解を深めるために体験的な学習活動を行う授業です。学習目標を意識しながら積極的に授業に参加してください。
- 集団保育の学習では、保育所、幼稚園で園児との交流を行う場合があります。絵本の読み聞かせ等の児童文化財を活用した学習活動等、表現力が求められる場面があります。グループワークや発表等で日頃から表現力を高めることを心掛けてください。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて理解を深め、関連する技術が身に付いている。	子供を取り巻く課題を発見し、思考を働かせながら課題解決に取り組んでいる。	子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
主な評価方法	・小テスト ・学習プリント記述内容	・小テスト ・レポートの記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面観察	・授業中の行動観察 ・振り返りシートによる自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	保育の意義	教科書 ワークシート	18	・保育とは ・保育の意義	・保育の意義と方法について理解している（a） ・子供の心身の状態や発達に応じた保育の方法について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している（b）
5	保育の方法			・保育者の役割 ・一人ひとりに合わせた指導	

					・子供の保育の方法について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている（c）
6	保育の環境	教科書 ワークシート	18	・家庭での保育 ・幼児教育・保育の場 ・子供が育つ環境の変化と課題	・保育の環境の特徴と役割について理解している（a） ・子供の保育の方法とその環境について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫しようとしている（b） ・保育の環境について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組もうとしている（c）
8	子供の発達特性	教科書 ワークシート	28	・発達と保育 ・発達の共通性と個別性 ・発育・発達の評価 ・身体的特徴 ・生理的特徴	・子供の発達特性と心身の様々な機能の発達について理解している（a） ・子供の健全な心身の発達について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫しようとしている（b） ・子供の発達について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている（c）
9	子供の生活と擁護	教科書 ワークシート	28	・生活と擁護 ・栄養と食事 ・衣生活 ・子供の生活習慣 ・基本的生活習慣 ・社会的生活習慣	・子供の生活と擁護について理解している（a） ・子供の生活と擁護について、課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫しようとしている（b） ・子供の生活と擁護について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている（c）
10	子供の文化の意義と支える場	教科書 ワークシート 絵本	18	・子供の文化 ・子供の文化を支える場 ・遊びと発達 ・遊びと表現活動	・子供の文化、遊びと表現活動について理解している（a） ・子供の遊びや表現活動について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫しようとしている（b） ・子供の文化について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる（c）
11	子供の福祉	教科書 ワークシート ライフプラン表	18	・児童福祉 ・子供を取り巻く課題と対策 ・子供が育つ社会環境 ・子育て支援からパートナーシップへ ・社会的擁護 ・地域の子育て支援	・児童福祉の理念と制度について理解している（a） ・子供の福祉を支える場の役割について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫しようとしている（b） ・子供の福祉について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている（c）
12	子育て支援				

令和7年度 総合的な探究の時間シラバス

科 目	総合的な探究の時間	単位数	1	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	—				
補助教材等	未来を拓く探究シリーズ 探究ナビ（ベネッセ）、本校作成各種プリント				

1 学習の到達目標

- 1 教科横断的な学習を通じて、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究の意義や価値を理解できるようにする。…【知識及び技能】
- 2 地域や国際社会、実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、必要な情報を集め、整理・分析して思考し、まとめ・表現できるようにする。…【思考力・判断力・表現力等】
- 3 探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、地域社会を支え、未来を創造しようとする態度を育てる。…【学びに向かう力、人間性等】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 教材は探究学習のテキスト「探究ナビ」（ベネッセ）を主に使用しますが、適宜、本校作成のプリントや ICT 教材なども使用します。学習する具体的な内容や方法は授業ごとに伝えます。
- 内容や進度に応じて、学年全体・クラス・グループ・講座などの単位で活動します。
- 自分の興味・関心、地域の課題、自分の進路にかかわることをテーマにして探究学習を進めます。学習の成果を、就職試験や入学試験に活かすことができます。また、自分の生き方や働き方に対する考えを深めることができます。
- 調査のために校外に出かけることがあります。地域の人たちと交流することもあります。放課後や長期休業などを利用する時もあります。主体性やコミュニケーション力が求められます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・課題の発見や解決に必要な知識及び技能を身に付けている。 ・探究の意義や価値を理解している。 ・地域社会の現状と課題に対する理解が深まり、問題意識が高まっている。	自分で課題を立て、必要な情報を集め、整理・分析し、思考して解決策を探り、まとめ・表現している。	・探究活動に主体的・協働的に取り組んでいる。 ・自分らしい自己の在り方、生き方を考え、自己実現を図ろうとしている。 ・異なる多様な意見や他者の考えを受け入れ、他者を尊重する価値観が身に付いている。 ・地域社会を支え、未来を創造しようとする態度が身に付いている。
主な評価方法	・プレゼンやポスターなどでの発表による評価 ・各種レポートや提出物による評価 ・学習到達度を明示したルーブリックでの評価	・プレゼンやポスターなどでの発表による評価 ・各種レポートや提出物による評価 ・学習到達度を明示したルーブリックでの評価	・学習態度や課題の取り組み状況による評価 ・生徒の自己評価や生徒間での相互評価

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 月 ～ 10 月	キャリア 探究	探究ナビ 本校作成教材	22	1～2年で学んだ探究の手法を生かし、自分の進路に関する分野やより内容を深めたいと考えるテーマから、1人1つ問いを立てて研究を行い、最終的にクラスや学年等での発表を行う。 調査方法が自分の探究テーマに対して妥当なものであるか精査しながら探究活動を進めるとともに、類似の探究テーマを設定している生徒と切磋する機会も設ける。発表の方法についても学び、どのような発表方法であれば自分の探究内容が他者に効果的に伝えることができるかについても講演を通し各自で研究する。	3の学習評価に記述したことをもとに、本校所定の評価ルーブリックを使い、知識技能、思考判断表現、主体性の3観点をもとに評価を行う。評価の場面は精選して行う。適宜生徒による相互評価も評価に含める。
11 月 ～ 1 月	研究論文 作成	探究ナビ 本校作成教材	11	研究成果についての論文作成を通じて、今までの探究のプロセスを俯瞰的に見直すとともに、論文形式でのまとめ方。表現の仕方を学ぶ。	3の学習評価に記述したことをもとに、本校所定の評価ルーブリックを使い、知識技能、思考判断表現、主体性の3観点をもとに評価を行う。評価の場面は精選して行う。適宜生徒による相互評価も評価に含める。
2 月	論文発表 振り返り	探究ナビ 本校作成教材	2	3年間の探究活動の振り返りを行う。	3の学習評価に記述したことをもとに、本校所定の評価ルーブリックを使い、知識技能、思考判断表現、主体性の3観点をもとに評価を行う。評価の場面は精選して行う。適宜生徒による相互評価も評価に含める。